****

**新しい調査結果から、インターネットドメイン名のユニバーサルアクセプタンスの市場規模は98億米ドルであることが明らかに**

*Analysys Mason社の調査から、インターネットの継続的な拡大のためにはユニバーサルアクセプタンスが重要であることが明らかに。*

**2017年4月11日シアトル発** – 新しい調査では、英語スクリプトを使用しない言語ユーザーのためのアップデートなどの、インターネットシステムのルーチーンアップデートを通じて、潜在的に98億ドルのオンライン収入の成長機会があることが明らかになりました。

テクノロジーコンサルティングで調査企業であるAnalysys Mason社は、[Universal Acceptance Steering Group](http://www.uasg.tech/)（UASG）の委託を受け、インターネットドメインのユニバーサルアクセプタンス（UA）の経済的、社会的、および文化的な利点を明確に実証しました。

ユニバーサルアクセプタンスは、世界中のユーザーが完全に各国の言語で操作できるようにする真に多言語のインターネットを目指すための基本的な要件です。また、新しいジェネリックトップレベルドメイン（gTLD）の可能性を広げ、ドメイン名業界における競争、消費者の選択肢の拡大、およびイノベーションを推進するための鍵ともなっています。

ドメインネームシステム（DNS）は大幅に拡大されていおり、1,200以上のgTLDが含まれるようになりました。これらのトップレベルドメインの多くは、従来の3文字のドメイン名（.com、.edu、.orgなど）よりも長く、ラテン文字以外の文字（中国語、アラビア語、キリル文字など）も多く含まれます。

ユーザーは自分のアイデンティティと言語に最もよくフィットするドメイン名を選択できるようになりましたが、多くのオンラインシステムでは、これらのドメイン名は無効として認識されます。たとえば、ユーザーがドメイン名または関連する電子メールアドレスをWebサイトのオンラインフォームに入力しても拒否されるなどの問題が発生する可能性があります。このような状況では、ユーザーの不満を招くだけでなく、企業が新しい顧客を獲得する機会も減少し、インターネットによって生み出される文化的、社会的、経済的利益も少なくなります。

UASGのRam Mohan議長は次のように述べています。「企業が長期な成功を収めるためには、自社のシステムがインターネットの共通インフラストラクチャ（ドメインネームシステム）を確実に連携できるようにし、責任を持ってこの機会を活用するべきです。ユニバーサルアクセプタンスは、経済的な機会を広げ、世界中のインターネットユーザーに一貫性がありポジティブな環境を提供することにより、次の世代のインターネットユーザーへの扉を開きます。さらに、政府やNGOは、ユニバーサルアクセプタンスを採用すれば、市民や有権者をより優れたサービスを提供できます。

今回公開された独立機関による調査結果では、国際化ドメイン名（各国言語でのドメイン名を許可するIDN）のサポートにより、控えめな推定でも1,700万人の新規ユーザーがインターネットに接続する可能性があるとしています。これまで母国語でサービスが提供できないために完全にオンライン環境を利用できていなかったユーザーが含まれます。

調査レポートの推定は、非ラテン文字（ロシア語、中国語、アラビア語、ベトナム語、インド語）を使用しているためIDNの恩恵を受ける5つの主要言語と言語グループと母国語でのサービスの欠如が障壁でインターネットを利用していないユーザーの割合の調査に基づいています。この調査によると、これらの新しいIDNユーザーによるオンラインでの支出は、少なくとも年間62億米ドルになるとしています。

さらに、このレポートでは、既存のgTLDユーザーの収益も増加する可能性があるとしています。ある調査によると、Webサイトの13％が3文字以上の新しいドメイン名を拒否しています。ユニバーサルアクセプタンスの結果として、これらのWebサイトを単にアップデートするだけでも（バグの修正）、年間36億ドルもオンライン収益が増大する可能性があります。また、共通のインターネットインフラストラクチャと連携するソフトウェアシステムについては、年間98億ドルの収益機会があります。この見積りも、電子商取引の支出の将来的な成長や新しいドメインの登録を考慮していないため、控えめな指標となっています。

Analysys MasonのプリンシパルであるAndrew Kloeden氏は次のように述べています。「当社の分析では、ユニバーサルアクセプタンスの主な障壁は、技術的な問題ではなく、問題認識が欠如していることです。ユニバーサルアクセプタンスは決して困難な取り組みではありません。UAの実装のためにソフトウェアとアプリケーションのオーナーが必要とする努力は、決して大きなものではありません。 実際、ほとんどの企業がUAの問題を単に「バグ修正」として扱っています。

各国の企業は、ユニバーサルアクセプタンスに向けて大きな進展を遂げてきましたが、いまでも多くの作業が残っています。この調査レポートの事例では、Adobe社、Verizon社、Wells Fargo社、Twitter社などの多くの大手グローバル企業が、顧客対応システムをUA対応にするために必要な変更を加えたことが示されています。ただし、このプロセスは完了しておらず、多くのアプリケーションが新しいドメインを受け入れていません。ユニバーサルアクセプタンスについては、gTLDよりもIDNの方がその普及が遅れています。

レポートの詳細をご覧いただくには、https://uasg.tech/whitepaper にアクセスしてください。

**UASGについて**

Universal Acceptance Steering Group 2015年2月に設立されたインターネットコミュニティイニシアティブであり、すべての有効なドメイン名と電子メールアドレスのユニバーサルアクセプタンスを効果的に促進する活動を行っています。このグループは、120社以上の企業（Apple社、GoDaddy社、Google社、Microsoft社、Verisign社など）、政府、コミュニティグループのメンバーから構成されています。UASGは、ICANNから財務および管理に関する多くの支援を受けています。詳細については、<https://uasg.tech/>をご覧ください。

**ICANNについて**

ICANNの使命は、グローバルインターネットの安定性、セキュリティ、統一性の確保を支援することです。インターネット上の別のユーザーにたどり着くには、コンピュータや他のデバイスにアドレス、つまり名前または番号を入力する必要があります。コンピュータが互いに相手の場所を認識するには、アドレスが一意でなくてはなりません。ICANNでは、このような全世界で一意の識別子の調整とサポートを支援しています。非営利の公益組織として1998年に設立されたICANNは、世界中の参加者によるコミュニティを形成しています。

詳細については、[www.icann.org](https://www.icann.org/)を参照してください。

**Analysys Masonについて**

テレコム、メディア、テクノロジー（TMT）の3つの重要分野におけるAnalysys Masonの優れた専門性は、優れた知見をユーザーに提供し、お客様のビジネスを変革し向上します。Analysys Masonは、1985年以降は30年以上にわたって、TMTのグローバルスペシャリストアドバイザーとして、業界のマルストーンに大きな影響を与え、市場の大きな変化をナビゲートしながら、お客様を支援してきました。当社は今後もデジタルエコノミーの開発の最前線で、破壊的なテクノロジーに対応する新しいビジネス戦略を顧客に助言していきます。

# # #